

かかわり合う活動を大切にした福祉教育の実践

米子市立加茂小学校

実践の報告

(1) 加茂っ子班での活動

6年生一人一人がリーダーとなり、全校児童が異学年で関わり合い活動する体験を重視し、春の全校遠足をはじめ、集会活動や昼休憩の「加茂っ子タイム」、運動会での応援合戦など、年間を通して活動している。異年齢の仲間と関わり合う中で、温かい思いやりの心をもって、互いに助け合い、励まし合っていく態度を育てている。



全校遠足



秋季大運動会 応援合戦

(2) 地域の方々との交流活動

①総合的な学習の時間 「加茂の名人さんから学ぼう」(3年生)

3年生では、校区で活躍されている様々な分野の名人さんを調べるとともに、名人さんとのふれあいを通して学ぶ学習を行っている。野菜作りや点字、書道、銭太鼓など、自分たちが調べた様々な分野の名人さんから話を聞いたり、一緒に活動したりする中で、地域に住む方々のすばらしさや憧れを感じるとともに、地域に対する愛着をもつことができた。



銭太鼓名人さん



点字名人さん

②敬老の手紙

地域に対する愛着を深め、地域にお住まいの高齢者に対する敬意を育むことを目的に校区在住のお年寄り約1,000名に、全校児童で敬老の日にあわせて手紙を送った。児童らは、自分のがんばっていることを紹介したり、お年寄りの方の健康を気遣う言葉を書いたりした。お年寄りの方には児童との手紙の交流をととても喜んでいただき、中には返事をくださる方もいらっしやった。

(3) 委員会活動（心ふれあい委員会）

①ベルマーク回収活動

毎月15日を「ベルマークの日」として、委員会の児童がベルマークを回収している。児童が担当学級に回収袋を配布して声かけをしたり校内にポスターを掲示したりして、啓発活動を行っている。



ベルマークの仕分け作業

②赤い羽根共同募金活動

赤い羽根共同募金の意義をポスターや放送で全校児童に呼びかけるとともに、各家庭へも手紙を配布した。朝、玄関に立つ委員会の児童が大きな声で呼びかけることにより、たくさんの児童の協力を得ることができた。